

2 - 6 - 7 ^{おしょうず} 御清水

天正年間、大野に入封した金森長近公が城下町大野を築いたとき「清水町の南方に方 40 間の水溜りを設け城廊内濠の原泉として押門を設け災害又は戦争にも備えた」と大野町史に記されているのが当地と伝えられている。また藩主の「米かしき水」として利用したので別名「殿様清水」とも呼ばれている。

水清き大野の象徴として親しまれ現在は共同洗場として重要な役割を果たしている。

ここにも以前は陸封型「イトヨ」が住んでいたが初冬から春にかけての地下水位低下による慢性的な湧水の枯渇現象により現在は生息していない。

昭和 59 年 10 月

大野市

説明板より